

# 論文審査の結果の要旨

氏名 高橋 遼

森林減少は世界的な問題であり、特にアフリカにおいて深刻であるが、この問題に対して地域共同体による森林管理制度、環境保全型農産物認証制度の2つの資源管理制度への関心が高まっている。本論文『開発途上国における森林保全－参加型森林管理制度・農産物認証制度の効果分析－』は、これらの2つの制度が森林保全に対して及ぼす効果を、エチオピアにおけるベレテ・ゲラ地域における参加型森林管理制度と森林コーヒー認証制度を対象として、衛星画像に基づく森林の植生に関するデータ、現地での実測に基づく地理情報、農村調査に基づく農家世帯データ、標高や傾斜などの地理情報データを統合したデータを、精緻な計量経済学的手法で分析することで定量的に推計したものである。本論文は6章からなり、第1章は先行研究の紹介、第2章は研究対象地域の概要、第3章は使用したデータの説明、第4章は地域共同体による森林管理の影響評価、第5章は森林コーヒー認証の影響評価、第6章は結論と政策提言について述べられている。

これらの2つの制度の効果について分析した研究はすでに蓄積がある。しかし、本論文のように、(1) 空間情報科学を利用して森林の植生をできるだけ正確に計測する、(2) 計量経済学的手法によって資源管理制度の対象となる地域が恣意的に決められることによる効果推計の偏りを修正する、という2点の両方を取り入れた研究はこれまでなかった。特に、環境保全型農産物農産物認証制度の効果については、これまでの研究のほとんどは定性的なケース・スタディであり、定量的な効果分析の研究はほとんど存在していない。このように、本論文は空間情報科学と計量経済学的手法を融合させた新規性・独自性の高い研究であり、その意味で本研究科の特長である「学融合」を有効に生かした研究として高く評価できる。

本論文が見出した主要な結果は以下の通りである。

(1) 調査地において、地域共同体による森林管理制度の導入によって森林の減少率は中期的には緩和されるが、導入の直前の駆け込み伐採によって一時的にはむしろ森林の減少率は悪化する。

(2) 森林コーヒー認証を取得することで、森林コーヒーの自生する地域の森林減少率は緩和される。これは、森林コーヒー認証による価格プレミアムを得るには、森林を保全する必要があるからだと考えられる。

(3) 森林コーヒー認証が森林保全に及ぼす効果は、農民の所得が低いほどむしろ大きい。

これらの結果は、学術的に新規性があるばかりではなく、開発途上国における政策に対しても大きな示唆を与えるものである。例えば、地域共同体による森林管理組合の設立にあたっては、駆け込み伐採を防止する必要があること、環境保全型農産物認証制度の導入が貧困地域においても森林保全に効果的であることが示唆されている。実際、これらの結果は国際協力機構（JICA）において発表され、活用されている。

なお、本論文は指導教員である戸堂康之教授との共著論文3篇を基にしているが、これらの論文において論文提出者は現地調査、データ分析、論文執筆において主導的な役割を果たしており、その寄与が十分であると判断する。

以上のことから、博士（国際協力学）の学位を授与できると認める。

以上 1330 字